

# ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年4月7日～4月13日)

2020年4月15日

在ベラルーシ大使館

## 【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、新型コロナウイルス感染拡大に関する会議実施。
- ベラルーシ IT 産業特区「ハイテクパーク」、82社が新規入居し、入居企業数は818社となった。
- ベラルーシ、ロシアに2020年ガス供給価格の改定を要請。

## 【ルカシェンコ大統領動静】

●プレスト州、ゴメリ州の国家首脳全権代表を任命。  
ラフコフ国家安全保障委員会書記をプレスト州国家元首全権代表に、ナザロフ第一副首相をゴメリ州国家元首全権代表に任命した。  
(4/13 大統領府公式ホームページ)

●新型コロナウイルス感染拡大に関する会議実施。  
ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。  
・新型コロナに伴う精神疾患がどのように展開されているか、あるいは既に落ち着いたか関心がある。我々が心臓疾患、ガン、喘息、糖尿病、肺炎等の他の病気で苦しむ人々を怒らせ、侮辱してしまう可能性があることも改めて喚起したい。  
・新型コロナウイルスは、きっかけですらない。新型コロナウイルスは、持病を進展させる環境である。私は、新型コロナウイルスだけで亡くなった人は一人もいないと言う。私が約束してきたように、我々は一人一人のために戦う。その点において、保健省や医師に感謝する。仮に我々が一人一人のために戦わなかったとしたら、死者数はもっと多かつたであろう。  
・我々には、既に今年の経験がある。我々や中国、米国、欧州の経験から、どのように取り組むべきか見えている。我々は既に医薬品の組み合わせを発見した。仮に、その人が諦めなければ、彼は必ず回復する。  
・安心して生きていこう。自分の仕事に取り組み、子を育て、未来について考えよう。我々は、一人一人が自身の生活を維持できるよう全てを行っている。特に、今、我々が一人一人のために闘って、この感染症に勝つことができると証明するために。  
(4/13 大統領府公式ホームページ)

## ●ワシチェンコ非常事態大臣と会談(4/9)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。  
・多くの注意が新型コロナウイルス感染拡大に割かれている。我々にとって最も大事なことは経済である。  
・ベラルーシでは、乾燥した天気が続いている。ベラルーシ国土の40%を森林が占める。そして、春は、人々が草を焼き始める時期である。森林火災が起きる。2回～3回の話ではなく、既に数十件発生している。これは大きな損失である。  
・火災による犠牲者数を注視している。新型コロナウイルスによる犠牲者数より、火災による犠牲者数の方が多い。病気やウイルスとは戦う必要がある。しかし、非常事態ではない。  
(4/9 大統領府公式ホームページ)

## ●新型コロナウイルス感染拡大対策に向けた保健制度の準備に関する会議に参加(4/7)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。  
・新型コロナウイルスの問題は、経済と密接に関連している。この病気と精神疾患の後、世界で何が起きるか誰も予言できず、ベラルーシ共和国の存在にも関連しているのである。我々は、大国のリーダーの思惑を知らないが、自身にメリットがあるように状況を活用することを歴史から知っている。  
・我々は、新型コロナウイルスとの闘いの手を緩めることはない。ただ、対策は、状況とリソースに沿って実施される。中国が状況を地域化し、封鎖することができたのは、潤沢な金準備高を有し、国民も少し異なっているからである。  
・国内の感染率は低下していないが、雪崩のような増

加は発生していない。我々は感染するであろう。保健システムが対応できるように、感染率が急激な増加で無く、水平線に近い形を望む。

・一方、人々も健康を重視し、免疫を高めるため、スポーツに取り組み、健康に悪い習慣をやめる必要がある。

・ルマス首相、そしてベラルーシ政府に対し、個人保護用品の在庫問題に取り組むべく要請する。保護用品の価格高騰は、あってはならない。国家管理委員会は、価格つり上げを行う薬局や販売店への取り締まりに対し責任を持つ。

(4/7 大統領府公式ホームページ)

### ●石油調達に関する会議に参加(4/7)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・我々は昨年末から今年にかけ、複数回にわたり製油所の稼働率、効率の指標に関する問題に取り組んできた。多くの問題があったが、なんとか持ちこたえてきた。しかし、新型コロナウイルスと、それに続く精神障害は状況を複雑化した。

・石油市場は絶対的に予測不可能である。ボラティリティは荒れ狂っている。我々の課題は、状況のいかなる進展にも備えることである。そして、既に述べてきたよう、大国間の石油ゲームへの依存を最小限に留めるべきである。

・これら大国は、何の目的で、どこでゲームをしているのか、既に隠していない。カルテルは顕在化している。残念ながら、我々は全てに影響を与えられる訳ではない。我々が自国経済のための軸を作れば作るほど、社会はより安定する。

・今後、我々は、毎度の論争、永遠の不確実性から脱却する必要がある。予測不可能な場合に備え、石油や燃料の在庫を確保することを要請する。現在、石油は安く、これを購入して、石油製品を製造し、一定の在庫を持つておくべきである。

(4/7 大統領府公式ホームページ)

## 【外交】

### ●ルマス首相、ミシュステン露首相と電話会談

両者は、ガス価格と新型コロナウイルス感染拡大対策につき協議した。

(4/13 ベラパン通信)

### ●ウズベキスタン、ベラルーシへ医療用品の人道支援を実施。

ウズベキスタンは、使い捨て作業着、レスピレーター、保護ゴーグル、ラテックス手袋、マスク等、51万3千個に上る医療用品、50万メートル分のガーゼ、消毒剤5万箱、医療用アルコール1万リットルを人道支援の一環でベラルーシに送付した。

(4/13 ベラパン通信)

### ●隣国による外国人入国禁止期間延長措置について

( )内は、前回の期限

ラトビア:5月12日まで(4月14日)

リトアニア:4月27日まで(4月13日)

ポーランド:5月3日(4月24日)

ウクライナ:4月24日まで(4月3日)

ロシア:4月30日まで

(4/10 ベラパン通信)

### ●ユーラシア経済同盟首脳テレビ会談実施

同テレビ会談には、各国首相が参加し、新型コロナウイルス感染拡大対策に関し協議した。会談後の記者会見において、ミヤスニコヴィッチ・ユーラシア経済委員会委員長は、「とりわけ、保護用品、消毒剤等の障壁の無い輸送に向けた措置について協議した。これらの製品の輸送上の問題は、新型コロナウイルス感染拡大対策に悪影響を及ぼす。また、EAEU 域内輸入における税関簡素化に向けた「緑の回廊」の設立を予定しているが、ガス供給の価格とタリフが未合意となっている。本問題はアルメニアとベラルーシにとって焦眉であるが、カザフスタンとロシアが合意できていない事項がある。我々は今後2週間のうちに各国エネルギー相のレベルにおいて本問題の解決策を見つける。」と述べた。

(4/10 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、メーゼンツェフ駐ベラルーシ露大使と電話会談。(4/10)

両者は、直近の計画されている両国外務省間の交流予定について協議するとともに、各種行事の実行に向けた相互理解を確認した。メーゼンツェフ大使は、新型コロナウイルス感染拡大を考慮したユーラシア経済同盟首脳テレビ会談の実施に関するルカシエンコ大統領のイニシアチブを支持した。

(4/10 ベラパン通信)

●ベラルーシは、EU に新型コロナウイルス感染対策の資金援助を要請

ボレル EU 外交・安全保障政策上級代表は、ベラルーシが EU に対し、資金援助を要請したと公表。資金額は 6000 万ユーロに達する見込み。

(4/9 ベラパン通信)

●ベラルーシ企業エネルギーオイル社、中国から臨床検査キット5万個、購入

貨物は、イスタンブール経由でミンスクに到着し、ベラルーシ保健省に送付された。検査キット総額は43万ドル超であり、検査キットは国内研究所に平等に配分される。

(4/8 ベルタ通信)

●中国招商局集団、30万ドル超相当額の人道支援をベラルーシに送付

パルスオキシメーター1万台、高保護マスク3万枚を人道支援としてベラルーシに送付予定。同貨物は北京から送付され、在ベラルーシ中国大使館経由でベラルーシ保健省に送付される予定。中国招商局集団は、中国・ベラルーシ共同産業特区「巨石」の株主の一社である。

(4/8 ベルタ通信)

**経済**

●ベラルーシ IT 産業特区「ハイテクパーク」、82 社が新規入居し、入居企業数は 818 社となった。

(4/13 ベラパン通信)

●カランケヴィチ・エネルギー大臣、オストロヴェツ原発の稼働状況について発言。

カランケヴィチ・エネルギー大臣は、テレビ局 ONT 社のテレビ番組「我々のニュース」に出演し、オストロヴェツ原発の稼働状況について以下発言した。

・今年、オストロヴェツ原発では、エネルギー部門の物理的な稼働と発電を予定している。物理的な稼働は今年の 7 月を予定しており、発電は今年 9 月～10 月を予定している。

・今後修正が必要になれば、我々は確認し、素早く対応する。

(4/11 ベラパン通信)

●2020 年 1 月～2 月、ベラルーシの商品・サービスの貿易額、去年同期対比 11.5%減少。

(4/10 ベラパン通信)

●ベラルーシ石油化学コンツェルン・ベルネフチェム、4 月にアゼルバイジャン、ノルウェーから石油調達見込み。

(4/10 ベラパン通信)

●ベラルーシ国内インフレ率、年換算で+4.9%。

国家統計局によると 2020 年 3 月のベラルーシ国内インフレ率は、2020 年2月対比+0.9%、2019 年 12 月対比+2.7%であった。

(4/10 ベラパン通信)

●非常事態省、核・放射能局コンサルタント、オストロヴェツ原発について発言

サバレフ・同局コンサルタントは、「オストロヴェツ原発では多くの作業員が入院となり、隔離された。100 名を超える作業員が、燃料輸送と物理的稼働の作業プロセスから外された。昨日(4/8)に発生した問題であり、稼働や発電のスケジュールにどのように影響が出るのか未定であるものの、私は影響が出ると予測している」と発言した。

(4/9 ベラパン通信)

**措置導入**  
(4/7 ベラパン通信)

●ベラルーシ、ロシアに2020年ガス供給価格の改定を要請

カランケヴィチ・ベラルーシエネルギー大臣は、4月9日ベラルーシ共和国下院にて露エネルギー企業ガスプロムと天然ガスの価格改定に関する協議を開始したと発表した。

(4/9 ベラパン通信)

●世銀の融資によるモギリョフ林業の温室施設、今年開業予定

(4/9 ベラパン通信)

●オストロヴェツ原発のロシア人作業員、新型コロナウイルスに感染

機材設立・原発稼働作業のためベラルーシに入国したロシア人作業員15名が新型コロナウイルス陽性反応のため入院となった。

(4/8 ベラパン通信)

**内政・軍事**

●新型コロナウイルス感染拡大に関し、WHOによるベラルーシ視察ミッション実施

4月7日、ルカシェンコ大統領の招へいにより、WHO専門家がベラルーシを訪問し、4月11日に結果ブリーフィングを行った。ベラルーシの取り組みを歓迎し、保健省のデータは国内の状況を反映しているとして、更なる施策を推奨した。

(4/11 ベラパン通信)

●教育省、ベラルーシ学校の春休みを追加で6日間延長、4月20日から授業再開。

(4/10 ベラパン通信)

●閣僚会議、新型コロナウイルス(COVID-19)による自己隔離措置導入に関する政令208号を制定。

(4/9 ベラパン通信)

●森林火災の危険性の増加に伴い、森林訪問禁止

(了)